

# セントラル愛知交響楽団 超!有名曲シリーズ

セントラル愛知交響楽団がお贈りする音楽の定期便「超!有名曲シリーズ」。この音楽定期便では松尾葉子(特別客演指揮者)が欧米各国の超・超有名曲をお届けします。音楽旅行のナビゲーターは音楽主幹 山本雅士です。

## Vol.5「北欧」

北欧の代表的な作曲家といえばシベリウス、グリーグ、ニールセンなどです。グリーグのピアノ協奏曲は衝撃的な始まり方をします。ピアノ曲ファンには憧れの曲です。パール・ギュントの音楽は美しい旋律がたくさん奏でられます。冒険好きのペールを故郷で静かに待ち続けるソルヴェグの切ない歌も聞こえてきます。今回は語りとともに劇音楽を盛り上げていきます。そして、シベリウスのフィンランディアは、故郷・フィンランドを奮い立たせるために演奏された曲です。たくさんの輝く湖、緑の森にそよぐ心地よい風に思いをはせて。

セントラル愛知交響楽団特別客演指揮者 松尾葉子

### 指揮:松尾 葉子 (特別客演指揮者)

Yoko Matsuo

1982年フランスのプザンソン国際指揮者コンクールで女性として史上初、また日本人としては小澤征爾について二人目の優勝という壮挙により、一躍注目を集める。名古屋生まれ。1981年国際ロータリー財団の奨学生としてフランスに留学、パリ・エコールノルマル音楽院指揮科でピエール・デルヴォー氏に師事。1983年「若い芽のコンサート」でNHK交響楽団を指揮。1984年二期会公演の「メリー・ウィドウ」を指揮してオペラデビュー。1999年セントラル愛知交響楽団の常任指揮者に就任。2001年ニューヨーク・カーネギーホールにてベートーヴェンの第九を指揮。2017年1月にはアムステルダム・コンセルトヘボウにて「ヴェルディ:レクイエム」を演奏し、好評を博す。平成28年度愛知県芸術文化選奨を受賞。著書「指揮者にミュージックが微笑んだ」(2003年論創社)、「指揮者、この瞬間」(2008年樹立社)がある。東京藝術大学指揮科教員を30年間務める。2015年~2020年まで愛知県立芸術大学客員教授。海外での活躍は1982年以来、プザンソン交響楽団、パリ・ラムルー管弦楽団、ベルギー・ブリュッセルの放送オーケストラのコンサート、録音等を手掛ける。現在、セントラル愛知交響楽団特別客演指揮者。2022年から「超!有名曲シリーズ」のメイン指揮者に就任。公式ホームページ <https://yoko-matsuo.com/>

### ピアノ:居福 健太郎

Kentaro Ifuku

東京藝術大学を経て同大学院修士課程修了。ソリストとして東京交響楽団、日本フィル、オーケストラ・アンサンブル金沢、仙台フィル、セントラル愛知交響楽団と共演。2022年は名フィル定期演奏会のソリストを務める。「題名のない音楽会」等のメディア出演、都民芸術フェスティバルオーケストラシリーズのソリスト出演、東京・春・音楽祭、アフィニス夏の音楽祭等の音楽祭に参加し、国内外で充実した演奏活動を展開している。室内楽奏者として五嶋龍、戸田弥生、山崎伸子、ヘンリック・ヴィーゼ(バイエルン放送交響楽団首席奏者)との共演や、小菅優とのピアノデュオをはじめ多くの奏者から強い信頼を得ている。現在東京藝術大学ピアノ科非常勤講師及び同大学声楽科演奏研究員。

### 管弦楽:セントラル愛知交響楽団

Central Aichi Symphony Orchestra

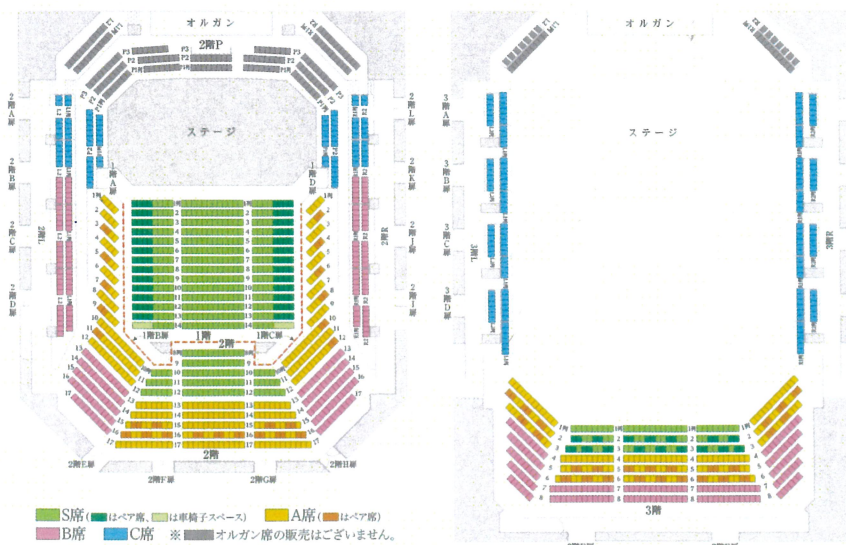
1983年ナガヤシチ管弦楽団として発足。1997年に現名称に改名。2021年4月に愛知県より認定を受け公益社団法人となる。2019年4月から常任指揮者に名古屋出身の角田鋼亮が就任。名誉音楽監督にレオシュ・スワロフスキー、桂冠指揮者に小松長生、特別客演指揮者に松尾葉子、首席客演指揮者に齊藤一郎、正指揮者に古谷誠一を擁し活動を行う。2023年40周年を迎える。定期演奏会、コンチェルトシリーズ、第九公演の他「超!有名曲」「Wコンチェルト」「オペラセミステージ」の各シリーズを自主公演として展開。バレエ、オペラ、ミュージカル等の依頼公演にも数多く出演。海外(2007年中国・2009年タイ・2017年韓国)でも公演し成功を取める。



### 客席のご案内

1・2階席

3階席



セントラル愛知交響楽団  
超!有名曲シリーズ Vol.6  
「イギリス」  
2024年6月29日(土)開催決定!  
指揮/松尾 葉子 (特別客演指揮者)  
エルガー: 威風堂々  
ホルスト: 組曲「惑星」ほか

### <お願い>

- 発熱や体調不良の場合はご来場をお控えください。
- 出演者への贈り物・面会をご遠慮ください。